

仙人通信 100 八海山（釈迦岳 1653m）

梅雨前線が南下して、新潟方面は快晴との天気予報に喜び勇んで、雨の中を出かけた。八海山は、巻機山と駒ヶ岳のほぼ中央にある越後3山で、釈迦岳・八ツ峰・大日岳・入道岳等からなる山塊である。遥拝所のある尾根までロープウエーで進み、尾根を辿るコースである。ケーブルを降りると運転時間の短縮の案内が標示されている。確認すると震災の為に協力とのことである。帰りの時間を考えた登山となった。

展望台のある遥拝所に一礼して、50mほど木道を進むと雪の中へと突入である。時折膝までズボ～ト潜るシャーベット状の雪である。登山道が山頂に向かい北面であるため、積雪を考えていたが予想以上だ。雪が融けた尾根では、ピンクのイワウチワ・ショウジョウバカマやタケシマランが出迎えてくれた。4合目でアイゼンを着けて慎重に進む。

ブナ・リョウブ等が雪の重みで、梢を雪に埋没して弓状に曲ったものが、日の光を受けて雪から解放されて、騒音と共に元に戻る様に春を感じる。篠に付けられたピンクの布切れの道標を頼りに雪の中を進むと池の峰である。慎重に下ると大きな楕円状の雪の窪地で、正に雪崩の押溜りの様なイメージである。コギ池らしいが定かでない。ここから急登の大雪渓のような雪原である。尾根に近い雪の縁を、雪崩れに備え、いつでも木々に捉まり脱出できる体制でゆっくり登った。6合半で尾根伝いの堀状の登山道となり、アイゼンを外して登る。両側ではトウゴクエンコザク・アズマイチゲ・エンレイソウ・ショウジョウバカマが綺麗だ。ふと見るとシラネアオイが2輪咲いていてくれているではないか。・・頭上では、白いタムシバ・ムシカリや紫のヤマツツジがトンネルを作る。

やがて女人堂のある浅草岳である。展望は360度で申し分ない。薬師岳を中心に雪形を付けた駒ヶ岳、右に巻機山・苗場山である。眼下には魚野川と嘗て、長尾一族が治めた広大な穀倉地帯が・・又、柏崎・銚子構造線（柏崎 魚野川 三国峠 高崎 利根川：フォッサマグナの東側の構造線）等に思いを馳せるのも悪くはない。

この当りから丈が10cm程のカタクリやイワカガミも加わり、正に花街道である。

登りを締めるとアズマシャクナゲがピンクの花で彩りを添える。登り初めて約2時間で薬師岳の山頂である。前面に八ツ峰の地蔵岳と赤い屋根の千本檜小屋がくっきりと浮かぶ。葉の大きいミヤマキスミレ・ミツバオーレンやツマトリソウも加わる。

八峰の手前まで下るとピンク・白のイワカガミが可愛い。岩陰ではミヤマキンバイだろうかダイコンソウだろうか黄色の花弁が輝いている。頭上の大きな岩(地蔵岳)の上にはピンクのシャクナゲが見事である。岩のことが脳裡を掠めた。新第三系の安山岩を中心とした凝灰岩の岩山であり。表面には火山灰系の茶色いヘナ土から出来た山体である。休憩していると、下方からホトトギスやカッコが初夏を告げる。更に先に進みたいが、ロープウエーの時間を考えて、ここ9合目で引き返すことにした。なんとも長閑で天上を花達と過している気分させられた心に残る5時間の山旅でした。また来たい！！（h23.6.8）

コギ池上の雪渓



イワウチワ



アズマイチゲ

